

Feeling excited

日本のおどり

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
Chairperson Michiyo Hata

発行：舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
TEL 03-5983-6001 (代表)

京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
TEL 075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp/>

Dancing from the heart



随筆

薫風

Kumpuu

Photo Hiroshi Mizobuchi

『帰ってくる日本の音』

舞踊集団 菊の会
代表 畑道代

菊

の会の活動を続ける中で海外での公演を重ねる度に、文化交流の重要性を身をもって感じて来ました。

何処の国でも人々は自国の歌や舞踊をこよなく愛し、誇りに思っており、ごく自然な形で何曲も歌ったり、踊ったり、演奏したりしている場面に出合います。

さて昨年から学校教育での音楽の学習指導要領の中で、生徒達に邦楽器にふれさせる事が加えられる様になり、大変うれしく思っています。

かつて、日本が国際社会からのおくれを一気に取り戻すために、自国の音楽を置いて西洋音楽を学校教育の中心にすえ、欧米化を急いだ事は、当時としては当然の事だったのかもしれませんが、

しかし、あまりにも偏つたために、日本を知らない日本人が増えてしまいました。

日本人にとって邦楽はやはり必要であるとして決定されたのですが、日本文化への方向性を失った年月の空白は土壌も消滅し、取り組む姿勢をもつものにも、その環境作りから大変な情熱を必要とする事でしょう。

また純粹無垢な子供達の心身に与える第一歩目にもし間違いがあったら、それは本当に取りかえしのつかない事になりかねないとも思っています。

とも角、これからの邦楽が新たな時代に新たな方向性をもって進む事が出来たら、学ぶ人もそこにきつと日本人のリズムと、日本人の日本人たる心も見出す事が出来るのではないかと楽しみでもあります。

人には良い空気と、良い水と、良い土が必要の様に、人と楽器をつなぐ人、また本当の楽しさを与えられる人つまり良い環境がとても大切だと思っております。

現在の日本は決して住みよくはありませんが、毎日、和服を楽しみ、邦舞、邦楽にふれる生活の中で、生命が延びる様な和食に舌鼓を打ち、日本人であつて良かったとしみじみ感謝しています。

特別寄稿

わが身さへこそゆるがるれ

歌舞劇「追分の女」を観て

作家・成城大学短期大学部教授

千 草子 (せん・そうこ)



「追分の女」に感動の声

神奈川・千葉で再演

昨年発表し、大好評を博した歌舞劇「追分の女」が四月十九日神奈川県横浜市民文化会館 関内ホールで、そして四月二十一日には千葉県文化振興財団の主催で千葉県青葉の森公園芸術ホールで公演し、両会場とも沢山の方々から絶賛の声を頂く事ができた。

特に千葉公演には、沼田武典知事が大変お忙しい御公務の中ご臨席ください、菊の会の舞台を初めてご覧頂き菊の会の今後の活躍に大きな期待を寄せてくださいました。又、当日は、江差町長若山昭夫様から、「この物語の故郷・江差町での公演実現を夢見ております」との心あたたまるご祝辞を頂戴し、大成功の公演となった。

四月十九日の宵、私はさきほどまで調査をしていた神奈川県立歴史博物館の『平家物語』の余韻にひたって馬車道を歩く。文字も絵も見事であったし、祇王・祇女、滝口・横笛、安徳帝入水、大原御幸などの物語が時をこえて、いくえにも重なり、むかしびとのころの哀しみと感情のゆたかさが私を揺らしていた。

関内ホールは、近い。ご招待くださった柴田さんの姿をさがす。三年ほど前、新幹線のなかでお会いして以来である。その時も、まさに奇遇であった。お嬢さんの亜矢子さんと隣りあわせ、祇王寺の話から落柿舎の話にいたり、ついで俳句の話に。おばあさまを加えて女三代の京の旅と聞いて、わけもなくうれしくなり、おつきあいが今日に及んだというわけである。

あの時も、なんと「畑先生」「菊の会」ということばを聞いたことであろう。むかしびとのころがわかる柴田親子が、こんなにも傾倒する舞踊家畑氏と



プロフィール
千 草子 (せん・そうこ)
作家・成城大学短期大学部教授。専門は、日本語の歴史と言語文化学。研究の過程で出会った人物や出来事、その時代の知恵をエッセイや小説にして発表。近作として、『ことばの歴史学』（丸善ライブラリー）『翠子（すいこ）清原宣賢の妻』（講談社）などがある。

はどんなかただろう。期待いっぱい幕開けをまつ。江差の空と海が、私を惹きつけた。去年の納涼歌舞伎で見た江戸佃の明るい海がオーバーラップしてきた。北海江差の暗い、しかし、ある面では宗教的でもある深みのある青が、これから展開される「追分の女」を予告する。

舞台の細道代は、悲しみを自分の美しさに昇華できる女を存在感あふれる演技で演じていた。舞やおどりが生活の一部であった当時をよくあらわして、群舞も観客のこころを揺るがす効果十分である。木村香澄の歌う、風土のエネルギーが彼女の体内で増幅して出てきているにちがいないと思うほどの「江

差追分もよかつた。雪のラスト・シーン——これを観ながら、私は日本の自然はそのまま舞踊だと確信する。だから、自然と人々が一体であった中世、あんなに人々は折々に踊っている。いや、平安末期の人も同じ。

遊びをせんとや生まれけん、遊ぶ戯れせんとや生まれけん、遊ぶ子供の声きけば、わが身さえこそゆるがるれ……畑先生、そして菊の会の皆様、二十一世紀に向かうからこそ、我を忘れて踊ることの大切さと喜びを、すべての人々に発信してください。私は、ことばで中世の「ゆるぎ」の心地よさを語りつづけますから。

舞いと踊り

(財)日本民族芸能国際交流協会理事長 三隅治雄



ひとくちに「舞踊」といいます。これは、「舞い」と「踊り」の合成語で、明治時代、西洋から来たダンスの翻訳語として使われました。「まい」は、元来、「まわる」の名詞化で、旋回動作をいいます。「おどり」は、おどりあがる、おどりで踊るの意の「おどる」の名詞化で、跳躍動作をいいます。舞いと呼ばれる舞踊には、平安時代なら、神楽舞・白拍子舞などがあり、鎌倉・室町時代には、曲舞・幸若舞や能・狂言の舞が、江戸時代には御殿舞・地唄舞などがありました。一方、踊りと呼ばれるものには、平安時代の田楽舞、鎌倉時代の念仏踊、室町時代の風流踊・盆踊・ややこ踊、江戸時代のかぶき踊・伊勢踊・小町踊などがあります。両者を比べると、「舞いは、概して、ソロが主体で、舞い手が物語や歌謡に即した振り

を見せます。歩行は、主に摺り足で、ゆつくりめぐり歩く形を取ります。その点、「踊り」は、群舞が主で、歌詞はあっても、振りにはコトバに即かず、リズムにのって、きまつた振りを繰返しながら、足を軽やかに上げ下げして前後するものです。出雲の阿国が始めたかぶき踊は、少女が群舞するややこ踊に、モダンで奇抜な気取る傾き者の茶屋遊びを加えたものですが、のち狂言小舞などの技法を取り入れ、ドラマの筋と文句を振りで見せる「所作事」に成長しました。しかし、生まれが「かぶき踊」でしたから、歌舞伎の舞踊はすべて「踊り」と呼ばれました。歌舞伎から出た西川・花柳・藤間：など諸流派はみな「踊り」とよばれたのです。

全国舞踊コンクール今年も入賞!

菊の会では平成九年から東京新聞社主催「全国舞踊コンクール」に毎年公演メンバーが出演している。平成九年度は一位と三位、翌年からは二年連続で一位・二位・三位を独占、そして本年も出場し、邦舞第一部で一位「供奴」の竹田秀晴、二位「藤娘」の鶴岡幸子がそれぞれ受賞した。

尚、今年から邦舞第二部で子供達も参加、武藤強志が「玉兔」で三位、その他「胡蝶」の宮原沙樹、山沢弘子、「禿」の山沢優子が入賞した。畑代表は、「入賞する、しなは別として踊りの基本を身につけ、本人の心と技を向上させる一つのステップとして今後とも参加してゆきたい」と語った。公演メンバーをはじめ次世代を担う若者達に、今後も期待が寄せられている。



神谷会長 本当は 有難うございました

一月十日、友の会の神谷龍
会長（鹿島建設株式会社顧問）
が御逝去されました。
これまで菊の会に賜りました
御厚情に心から感謝申し上げます。
謹んで哀悼の意を捧げます。



菊の会「友の会」親親パーティー
にて（左東京会館）

哀悼



九月、松戸市の森のホールで舞
踊教室「菊峯会」の発会レセプ
ションにお招きを受け、舞踊の
美しさの中から日本の踊りこそ、
伝統芸術として守って行く重要
性を再認識したのです。
その一ヶ月あと、印旛郡栄町で
第八十三回地域文化公演が千葉
県文化振興財団主催で盛大に行
われた際も取材がてら鑑賞させ
てもらい、次々と移り変わるテ
レノボの速い独創的な舞台に席を
立つことを忘れ、原稿の締め切

り時間に遅れてしまったことを
記憶しています。
またその時、畑道代先生に初め
てお目にかかることができた。
舞台の準備でお忙しい中、丁寧
なご挨拶をいただき、穏やかな
人柄は日本のおどりの伝承者に
ふさわしい立派な方と感銘いた
しました。
畑先生の作品は美しく力強い。
踊りと歌、さらにお芝居をミッ
クスした歌舞劇を創造し、古典
舞踊を見事現代風に蘇らせてい

菊の会に栄光あれ

千葉日報社取締役 宇井 昭

日本人の心に灯をともしてくれ
る舞踊集団「それが「菊の会」
でしょう。新聞記者のわたしと
日本舞踊との組み合わせはとて
も連想出来ませんが、なぜか
「菊の会」に心引かれる思いで
す。
それはただ、古典文化の伝承と
いったものだけでなく、振り付
けといい、舞台といい、見事な
日本の美の演出に強い感動を覚
えたからです。
「菊の会」との出会いはず年の

る。
去る四月、千葉県青葉の森公園
芸術ホールで公演した歌舞劇
「追分の女」は、まさにその集
大成とも言える作品でありま
した。普段お忙しい沼田知事も
第一部が終わるまで鑑賞され
ていた。知事があるな長時間観
劇しているのは大変めずらしい
きつと畑先生の一本一本の指先
一言一言の言葉の優れた技術に
心引かれたためと思います。
わたしのほうも見事な舞台装置



千葉日報社取締役
宇井 昭

これからも、踊りという日本古
来の文化をより美しく、より分
かりやすく、そして多くの人々
の心に夢と感動を呼び戻すため
に、畑代表率いる舞踊集団「菊
の会」の新世紀へのさらなる発
展をお祈り申し上げます。

神谷会長は邦楽、邦舞に造詣が深
く、常磐津・清元の名取りでプロ
の方と共に堂々といとお声を聞か
せて下さいました。お亡くなりにな
る四日前にも、御自分が育てら
れた見事な鯉の写真を書きにし
てお便りを頂いておりましたので、
訃報は信じられない思いでした。
菊の会の舞台に何時も駆けつけ
て下さり、催しにも御参加されて
見守って下さいました。
又、遠い所の教室の発会式にもお
一人、矍鑠（かくしゃく）と会
場におみえ下さいました。
御支援賜った事に感謝し心から
御冥福をお祈りいたします。



MAIL BOX

菊の会へのお便り

芝浦工業大学名誉教授
笠井尚雄

「さつき会」の 公演に寄せて

鳴り止まない拍手！舞台と観
客席が歓喜に包まれて一体と化
し、興奮と感激が頂点に達した
その瞬間こそ、府中の森芸術劇
場において、第二回さつき会の
舞踊の公演におけるフィナーレ
の光景でありました。
5月5日子供の日になん
で、菊の会が主宰する少年少女
とジュニアのメンバーでの、未
来を担う若者達による催しに招
待をいただき、その熱演に、心
洗われる思いで鑑賞させていた
だきました。この度「さつき会」
の公演を拝見して、若い出演者
達の、真剣で、誠実で、一途で、
一生懸命で、大成を目指し全力
をつくしてやる姿を目のあた
りにし、その裏側に付随する厳
しい鍛えの場に耐えて、精進し
努力している一人々々に対し、
称賛の念と共に、他方羨ましい
までの思いを抱きました。
私は、在職中、三十年近くに

互って学生の就職に携って参りま
したが、来訪される多くの企業の
方々との話し合いを通じ、企業サ
イドからの望ましい学生像として、
明確な「目的観」と、在学中に熱中
したものを持った経験の有無に大
きな比重が置かれている事を知り
ました。これは、入社後において、
明確な目標を設定しての、一途な
精神に繋がるからだと思います。
人間は常に向上努力している場
合、自然に謙虚さと礼節が身に付
き、すがすがしい好ましい人物像
が醸し出されてゆくものでありま
す。望ましい人間性の構築と人格
の陶冶は、こうした中から自然に
育まれてゆくように思われます。
現今の無軌道な若者達の言動が、
一大社会問題となっている現状を
考えるとき、子供の成長の過程に
おいて、親子で響鳴し合えるよう
な、大きな感動を味わうことによ
り、生命の充実感を体験できるよ
うな対象が、更に更に必要だと思
われます。多感な少年時代のこう
した体験こそ、本人の未来におい
て、より望ましい立派な人材とし
て成長するために、必須の要件と
云えましょう。「さつき会」の公
演は様々な意味から「子供の日を
慶祝する上で、最もふさわしい価
値のある行事であります。
舞踊についての評論の知識がな
いままに、主催者のご厚意により
鑑賞させていただいたこの度の催
しを通じ、人間形成の面で感じた
一端をのべてさせていただきます。
出演された若い人達の大いなる
成長に期待し、ご高礼と今後の貴
会の益々のご発展を心よりお祈り
して止みません。
有難うございました。



「供奴」 竹田秀晴



「藤娘」 鶴岡幸子



「玉兎」 武藤強志

Information

7月～12月公演予定

京都八瀬研修所 浴衣会

7月 7日(金) 1時開演 入場無料

菊の会自主公演 千葉県松戸森のホール21

7月 15日(土) 3時・6時30分開演 ¥5,000 (当日¥5,500)

菊の会友の会総会 八芳園

7月 20日(祝・木) 1時30分総会 2時懇親パーティー (¥12,000)

教室発表会 中野ゼロホール

8月 13日(日) 12時開演 (予定) 入場無料

南越谷阿波踊り

8月 19日(土) 20日(日) 夕方スタート ご家族でどうぞ!

ディナーショー つくば山水亭

8月 27日(日) 昼・夜公演 (時間・入場料未定)

日本のおどり 日暮里サニーホール (ACC荒川区文化振興財団主催)

9月 9日(土) 1時・5時開演 ¥4,500

舞踊コンクール アンコール公演 五反田ゆうぼうと

9月 15日(祝・金) 4時開演予定 ¥3,000 (予定)

アトリエ公演 菊の会スタジオ

10月 7日(土)・8日(日) 1時・4時・7時開演 ¥4,000 (当日¥4,500)

9日(祝・月) 1時・4時開演

菊の会自主公演 歌舞劇「博多どんたく交響曲」(仮題)

各会場 2時・6時半開演 入場料¥5,000(当日¥5,500)予定

11月 23日(祝・木) 日野市民会館

24日(金) 所沢市民文化センターミュージズ

25日(土) 志木市民会館

29日(水) 川越市市民会館やまぶき会館

12月 2日(土) 日本青年館

3日(日) 江戸川区総合区民ホール(船堀)

5日(火) 越谷サンシティホール (大ホール)

九州民音公演 各会場2回公演 (時間・入場料未定)

12月 8日(金) 博多座

11日(月) 宇佐文化会館 (ウサノピア)

※上記は予定であり、やむを得ず変更する場合がございますので、ご来場の折にはお電話でご確認下さいませようお願いします。



Kikunokai News きつき晴れ 若さあふれる舞台!

舞踊芸術の継承を目的として、新世紀を担いゆく若者達の会が、今年も五月五日こどもの日に「さつき会」と銘打って開催された。

4歳から27歳の若者が活気溢れるエネルギーを発散させながら真剣に取り組む舞台は、昼夜共満席で、熱い拍手で迎えられた。



Coffee Break



『竿職人』

公演メンバー 枝木 茂

私は、幼い頃から人一倍勝気で、何でも好奇心が旺盛でした。なかでも「釣り」は、私にとってかけがえのない大切な物の一つです。「釣り」と云っても様々ありますが私にとっては、たなご釣りに大変魅力を感じます。

今は、やる人が少ない様ですが、もとは江戸中期頃の大名遊びとして流行したのが始まりで、大名専属の竿作り師が作り、竿の長さは50センチ位で釣糸は、禿(遊廓)の童女の髪の毛を抜いて作ったという事を聞いた時は、驚きました。

竿作りは、真竹の先端部分の選択から仕上げまで一人で行いますが、名人の作は高価な値がつけれ、なかなか手に入りません。

幸い、たなご竿作り職人14代目金子氏が私の家の近くに住んでいて、幼い頃より交流を持って頂いていたお陰で、手にする事が出来ました。しかし残念な事にたなご竿職人の名人14代目金子氏が高齢で跡取りが

なく、この方の代で絶えてしまつのかと思うと何ともいえない気持ちになります。

竹から竿に変わっていく工程はまさに芸術で、節のある部分を燻して手作業で真っ直ぐにする、そして何度も漆を塗って貴重な道具に仕上げているのは、癖のない素直な心が芸に大事だと云われています。

つきやすい自分の癖をよしとせず、自分と戦って真っ直ぐにしていく事は、竿作りの名人が、竿を真っ直ぐに仕上げている様なもので、その手抜きのない根気に大変感銘を受けました。

私も日頃から畑代表に「人間的に癖のない人の踊りは、どこまでも伸びる」と云われています。

名人作の竿の様に、使い込む程値打ちの出る様な、魅力ある舞台人になりたいと願っています。

Atelier stage

一年振りのアトリエ公演

Kikunokai News



「心弾む早春に舞う」と題して、東京では久々のアトリエ公演が三月十八日から二十日まで行われた。活気あふれる「供奴」で開幕し、畑代表による「風流船揃」を素踊りでスッキリと見せた後は、ユ一モラスな狂言舞踊「茶壺」で大らかな笑いを誘う舞台に、観客から明るい笑い声と拍手が寄せられた。

続く第二部「新しい時を刻んで」では「愛燦燦」「月の旅人」「烈」等、心に残る日本の歌に乗せてそれぞれ趣きの違つ舞台が繰り広げられた。

【問い合わせ】

学校公演、広告や上記の詳細等のお問い合わせは 03-5983-6001 (代) 菊の会「企画部」まで



プロフィール 枝木 茂

Shigeru Edaki

1973年畑道代に師事。

菊の会の作品および数々の海外公演に出演。

1998年全国舞踊コンクール(東京新聞社主催)邦舞第1部で2位入賞。